

爆音映画祭 *in* 京都

**Bakuon Film Festival
in Kyoto 2016**

2016. 5.19 (Thu.) - 20 (Fri.)



(日・EUフレンドシップウィーク)
Events of May 2016



『すべての若き野郎とも/
モット・サ・フール』

『さつとこが
帰る場所』



**同志社大学寒梅館
ハーディーホール**



WHAT'S ON THURSDAYS!

同志社大学学生・教職員 (同志社内諸学校含む) 無料

『地球に落ちて来た男』



(左から)『地球に落ちて来た男』© 1976 Studiocanal Films Ltd. All rights reserved. 『きつとここが帰る場所』© 2011 Indigo Film, Lucky Red, Medusa Film, ARP, France 2 Cinema, Element Pictures. All Rights reserved. 『すべての若き野郎ども／モット・ザ・フープル』© Start Productions

★ 不可視のスターを凝視する ～2016年京都爆音へのお誘い～

映画や音楽の20世紀を作った多くの偉人たちの死を、わたしたちは昨年末から次々に知らされた。中でもデヴィッド・ボウイの死は、あまりに衝撃だった。エルヴィス・プレスリーの腰の例を出すまでもなく、そのヴィジュアルとセットで誕生したロックンロールは、デヴィッド・ボウイという身体を得て成熟し、あらゆるものへと変容可能な運動体として、つまりロールし続けるロックとして、わたしたちの視覚に刻み付けられたのだから。ボウイは果てしなく変わり続けるはずだった。しかしその身体は、「死」という不可視の領域へと不意に去ってしまう。ロックを見ることは、今やそのスターの見えない暗闇の中に、つまりブラックスターのその向こうに目を凝らすことにほからないのだと、いきなり告げられてしまったのである。わたしたちの未来も過去も、その暗闇の中にあるのだと。

70年代前半、デヴィッド・ボウイやTレックスの登場によりロックの世界に怪しい花を咲かせたグラムロックは、「ロック」というジャンルを大きく飛び越え、世界中に可能性の種子を撒き散らした。わたしたちの21世紀はその中にあると言っていい。映像に収められたグラムロックとともに、今や暗闇の中にしか残されていないかもしれないわたしたちの可能性に向けて、一步踏み出せたらと思う。そこではデヴィッド・ボウイの死から始まる物語が生まれることになるだろう。

.....樋口泰人 (boid主宰/爆音プロデューサー)

地球に落ちて来た男 The Man Who Fell To Earth

1976年|イギリス|139分|BD上映 提供:京都みなみ会館/boid 監督:ニコラス・ローグ
出演:デヴィッド・ボウイ、リップ・トーン、キャンディ・クラークほか

タイトル通り、宇宙人としてのデヴィッド・ボウイの物語。その宇宙人が聴いたと思われる耳障りなノイズが、時折、彼と世界との関係を断絶する。音痴な宇宙人という設定も泣ける。ボウイの曲は流れないが、その背景にあったはずの音楽の記憶のようなものとして幽かに流れる音楽が、わたしたちを彼がやってきた宇宙の彼方へと誘うだろう。

きつとここが帰る場所 This Must Be the Place

2011年|イタリア、フランス、アイルランド|118分|35mm上映 提供:セテラ・インターナショナル 監督:パオロ・ソレンティーノ 出演:ショーン・ベン、フランシス・マクドーマンドほか

ショーン・ベン扮する、すでに盛りを過ぎたグラムロックがあまりに痛々しすぎて、見ているだけで息が詰まる。35年後に作られた『地球に落ちて来た男』の別ヴァージョンとも言えるのではないかとささえる。人間離れたボウイと違ってこちらはより人間的でもあるのだが、宇宙に戻れなくなってしまった男が覚悟を決める物語でもある。

すべての若き野郎ども／モット・ザ・フープル

The Ballad of Mott the Hoople

2011年|イギリス|101分|BD上映 提供:ヤマハミュージックメディア 製作・監督:クリス・ホール、マイク・ケリー 出演:モット・ザ・フープル、ロジャー・テイラー、デヴィッド・ボウイほか

デヴィッド・ボウイ作の『すべての若き野郎ども』の大ヒットで世界に名を知らしめたモット・ザ・フープル。ボウイとの共演シーンも見ることのできるこのドキュメンタリーは、若きバンドの盛衰の物語でもあり、また年老いた男たちの生き残りの物語ともなる。フロントマン、イアン・ハンターのギラギラとした現在の姿に、誰もがニヤリとするはず。

※本作にも登場するオリジナル・メンバーのひとりデイル・グリフィン(Dr.)は、2016年1月17日、ボウイの後を追うように67歳の生涯を閉じた。

爆音上映 とは、通常の映画用の音響セッティングではなく、音楽ライブ用の音響セッティングをフルに使い、

ボリュームを限界まで上げ大音響の中で映画を見・聴く試みです。一般劇場上映では聴くことの出来ない迫力と、その爆音によって視覚までもが変容して映画そのものも違って見える。大音響でなければ聴こえてこない幽かな音を聴くという、大胆かつ繊細な上映となります。

★タイムテーブル 開場は各回15分前を予定 ※両日とも、各作品上映前に樋口泰人による解説あり

5月19日(木)

16:00 すべての若き野郎ども／モット・ザ・フープル

18:30 地球に落ちてきた男

5月20日(金)

16:00 きつとここが帰る場所

18:30 地球に落ちてきた男



料 金
『地球に落ちてきた男』
▶一般1800円、Hardience会員・学生1300円
『すべての若き野郎ども』『きつとここが帰る場所』
▶一般1300円、Hardience会員・学生1000円
※同志社大学学生・教職員(同志社内諸学校を含む)は全作無料

主催: boid
同志社大学今出川校地学生支援課
同志社大学図書館

機材協力: モノリス



同志社大学寒梅館 ハーディーホール

お問合せ: 同志社大学今出川校地学生支援課

Tel: 075-251-3270 <http://d-live.info/>

E-mail: ji-gakse@mail.doshisha.ac.jp

京都市上京区御所八幡町103

地下鉄今出川駅下車、②番出口より北へ60m程。

駐車場・駐輪場はございません。公共交通機関をご利用ください。

